

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課 地域学校連携担当
〒020-0034 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-6173
FAX 019-629-6179
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和4年7月20日発行 第21号

7/5 沿岸南部教育事務所管内 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

本年度中に全ての小・中・義務教育学校でコミュニティ・スクールが導入される沿岸南部教育事務所管内では、地域学校協働活動を工夫して展開している横田小学校と、早くからコミュニティ・スクールに取り組み、様々な実績のある大槌学園による事例発表が行われました。

横田小学校長 菊地桂子氏より

- 地域学校協働活動推進員が地域の情報及び願いを受け取るために定期的に区長さんと顔を合せている。
- 中学校閉校の際に途絶えた若竹太鼓の学習を創立 150 周年を記念して復活させたい。
- 地域の方が学校に足を運びやすいように「コミュニティ・ルーム」を設置することで、ボランティア組織を構築したい。
- 学校運営協議会委員が自分事として関わられるようにすることが課題である。

大槌学園副学園長 外館憲子氏、主幹教諭 彌勒地哲也氏より

- 震災後、子どもたちの育ちと学びを支えるためにチーム大槌が立ち上がり、平成 27 年度よりコミュニティ・スクールがスタートした。
- 「学校」「家庭」「子どもたち」で「自立」「協働」「創造」をキーワードに目指す子ども像を話し合った。
- 令和 2 年度より教育学を専門としている島根大学の先生が学校運営協議会委員に加入している。
- 教育活動アンケート結果をもとに、改善に向けて何ができるか、地域、家庭、学園で協働できることを探る話し合いをしている。



後半は、八幡平市教育委員会事務局社会教育指導員兼コミュニティ・スクールアドバイザーの藤嶋茂美氏の進行によるパネルディスカッションが行われました。事例発表者の他に釜石市統括地域コーディネーターの寺田恵美子氏が加わり、学校運営協議会での地域との連携協働や目標の共有について討論がされました。地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員の存在の大きさや、地域の特徴を生かした活動が話題となりました。

藤嶋茂美氏より

- 運営協議会委員の選出が大きな課題である。入ってくる人が変わると議論も大きく変わる。民間の経営者を加えることで様々な視点から協議することができた事例もある。
- 学校運営協議会は、統合後の学校運営を進める上で、有効な仕組みである。両方の学校から情報を取り入れ調整を図ることができる。
- 協議会形式の話し合いだけでは不十分。「熟議」を通して委員さん同士の横のつながりができる。
- 3 学期に慌てて方針をつくるよりは、評価をもとにしながら、じっくり話し合いをする「熟議」をすることで、新年度方針が修正されるということはなくなる。
- 「方針」を承認することで終わらずに、計画を共有することが大切である。地域の方も主体的に活動することができる。

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）
岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。